

乾乳牛管理のおさえるべきポイント

損防検診室(兼根室西部事業センター 第2家畜診療課) 獣医師 三宅 英之

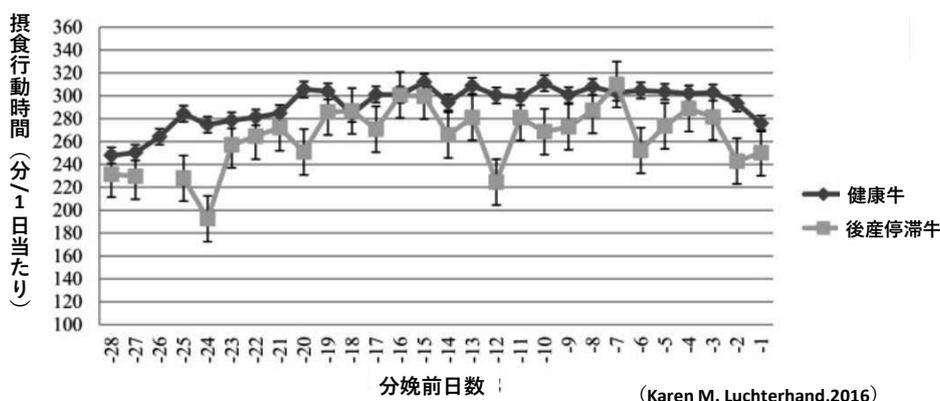
今回は乾乳時期をうまく乗り切るためのポイントを、今後乾乳舎を建てる予定の方だけでなく、現在の乾乳舎をうまく利用するためにも必要な知識として皆さんに知っておいていただきたい、群れの中の牛の特性についてお話ししたいと思います。

1. 乾物摂取量を落とさない!!

これからお話しするいくつかのポイントとは、いかにこの「乾物摂取量を落とさず乾乳期を過ごさせるか!」という目標のための手段になります。乾乳期の乾物摂取量の低下は栄養不足と脂肪動員、それに引き続く代謝性疾患(周産期病)へと繋がりが、最終的には繁殖までにもその影響が出てきます。

図1は健康牛に比べて後産停滞になった牛ほど、分娩前1日当たりの採食行動時間が短いことを示しています。後産停滞はその後の子宮炎を誘発し、繁殖成績の低下を招く大きな一因となります。それでは、なぜこのような乾物摂取量の低下が個々の牛で起きてしまうのでしょうか?

図1 健康牛と後産停滞牛の分娩前採食時間の比較



2. 乾乳期の飼養密度と乾物摂取量

図2は移行期における牛群の飼養密度が高ければ高い程、乾物摂取量が落ちていくことを示しています。これはあくまでも牛群内の平均摂取量を示しており、個体レベルで見るとこの数値よりも更に低い摂取量を示す個体が出て、特に肢・蹄の悪い個体や体の小さい社会的に地位の低い個体ほど、過密な群れの中では餌を食べられないことになりま

す。この負のエネルギーバランスによる悪影響は分娩後の周産期病に直結するような大きな問題となります。それでは社会的に地位の低い牛とはどのような個体でしょうか。

3. 牛の群移動と社会的闘争

「初産牛は他の経産牛と同居させると食い負けする!」「パーラーへ真っ先に侵入する牛はだいたい決まっている」これらの現象はまさに闘争と順位に関する行動です。

牛同士の闘争行動(順位の確認)は馴染みのない牛同士で起こること

図2 移行期の乾物摂取量と飼養密度

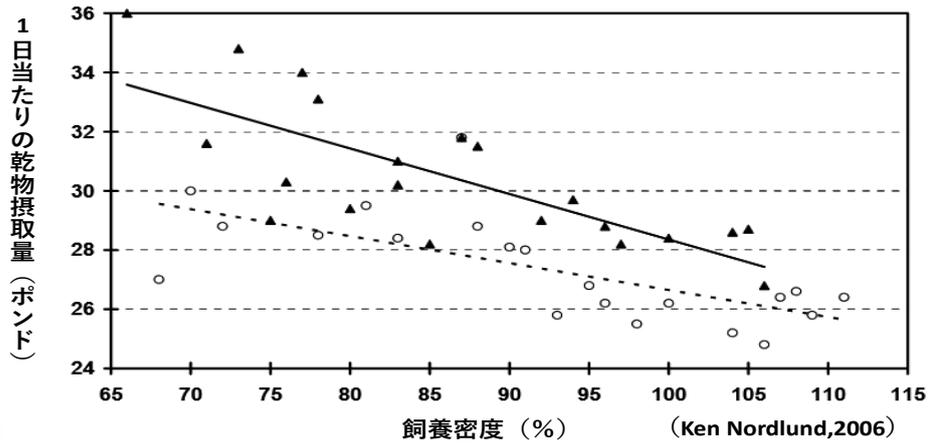
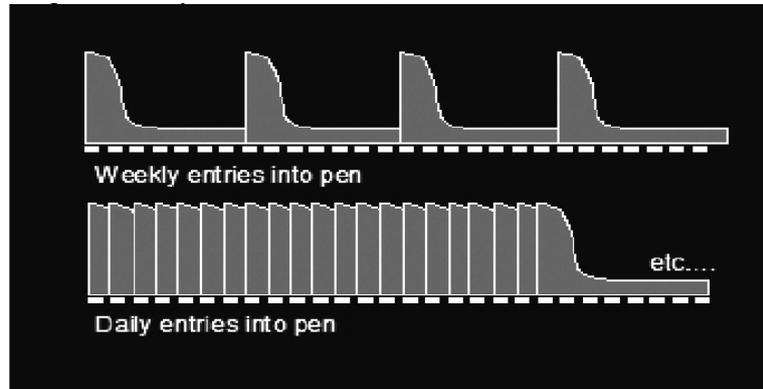


図3 牛の導入と社会的混乱



(Ken Nordlund,2006)

群では順位の確認による闘争行動が常に起きていることを表しています。

ここで先に述べたような過密な状況が重なる時、下位の牛が食い負けを起こすこととなります。それでは、このような食い負けを防ぐための対策をいくつか挙げます。

1. 採食場所をできるだけ広く確保する。
2. 飼槽以外（外のパドック等）にも草架台を置くなどして下位の牛の逃げ場所を作る。
3. 常に飼槽に餌がありいつでも採食できるようにする。
4. 連動スタンションの利用など採食中に上位の牛から妨害されないようにする。

が多く、群構成が固定し時間が経過してくると徐々に減少し2〜3日で安定して行くと言われています。

頻度が1週間に1度の場合と毎日のように導入した場合の牛群の社会的混乱を図で示したもので、下段のように毎日新たな個体が入ってくる牛

「最近、周産期病（四変、ケトシス、後産停滞）が増えてきたなあ」という農場は、その少し前の時期の乾乳舎を思い起こしてみてください。「乾乳舎の過密」に思い当たる節があれば、そこに周産期病の原因が隠れているかもしれません。